

生徒会とV S 活動

(J R C 委員会を通して)

足利市立第二中学校生徒会係

岡 田 明 男

1 学校教育の中に J R C の精神や活動を入れたわけ

現代社会は急激な科学技術の進歩発展と社会構造の複雑化にともない自分自身を見失い、人間関係の疎外の弊害をもたらしている。現在ほど人間性の回復が叫ばれている時代はなからう。こうした時代には学校教育を組織化し、生徒ひとりひとりの内面に培うような精神的支柱が必要である。

そこで本校では、ヒューマニズムに立脚した人類愛の精神を諸教育活動の場にとり入れる必要があるとの観点から J R C の精神を学校経営にとり入れた。それは生徒のひとりひとりの心の奥にひそむ愛の心をよびおこす教育をしなければ人間生活はあじけないものになるだろう。そこで J R C 加盟の意義とその活動を、本校の教育目標、努力点、具体策にもりこみ、その精神を心の支柱として、ひとりひとりの心をゆさぶり起し、豊かな人間性と実践力のある生徒の育成をはかろうとした。

2 学校教育の中での J R C の位置づけ

(1) 本校の教育目標

調和的人格の完成をめざし、進みゆく時代と地域の実態に即応しながら、下記の目標をかかげ平和と文化を愛し、国際社会に立って信頼される良識ある日本人を育成する。

- 1 心身ともにたくましく健康な生徒 (たくましさ)
- 2 自主的、積極的で向上心にもえる生徒 (きびしさ)
- 3 心情ゆたかで創造力を構えた生徒 (ゆたかさ)
- 4 おもいやりが深く、他人のために協力し奉仕できる生徒 (あたたかさ)

(2) 教育の方針

ひとりひとりの生徒の個性と能力を見きわめ、それを最大限に伸ばさせるとともに、各自の能力に応じて創意意欲をもって生活をきりひらき、国家、社会に貢献できる人間の育成をはかる。

1. _____ 略 _____

2. _____ 略 _____, 寸暇をみつめて真善美を探究し、自主的、積極的に向上しようとする意欲と習慣態度の育成をはかる。

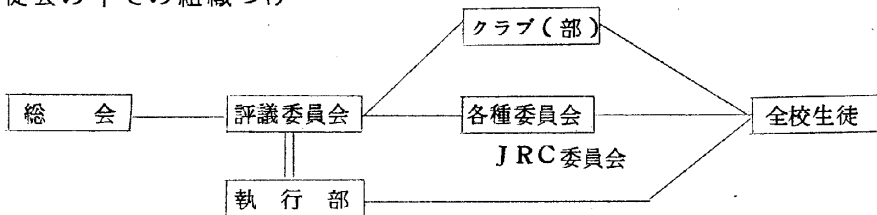
特に自律的態度と実践力・強い責任感等については、特別活動を中心とし、日常の学校生活の中で、その態度、習慣の強化をはかる。

(3) 本年度の努力目標、努力点、具体策

| 努力目標 | 努力点 | 具 体 策 |
|------------------|----------------|-------|
| 1. ねばり強い体力精神力の育成 | (1) たくましい体力づくり | 略 |
| | (2) 健康な生活習慣づくり | " |
| | (3) 安全な生活習慣づくり | " |

| | | |
|-------------------|--|--|
| 2. 自主的積極的な学習意欲の育成 | (1) 模索, 発見, 創造学習の確立 (2) 家庭学習の確立 | 略 " |
| 3. 豊かな情操の育成 | (1) 美とのふれあい (2) <u>心のふれあい</u> | " " |
| 4. 基本的生活習慣の育成 | (1) <u>奉仕活動の活発化</u> (2) きまりを守る態度の習慣化 (3) 礼儀正しい態度の習慣化 | ア <u>JRC委員会活動の推進</u> イ <u>VS活動の推進</u> ウ <u>清掃活動の徹底</u> 略 " |

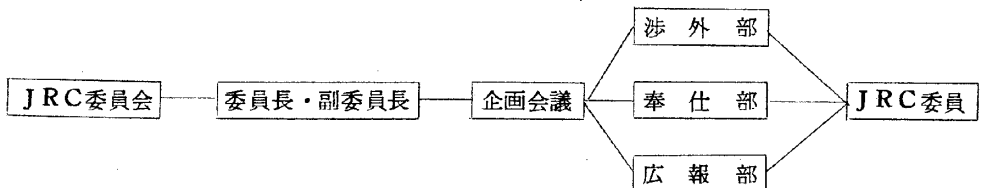
3 生徒会の中での組織づけ



全校生徒がJRCに加盟しているので、新たに委員会をつくる必要はないのだが、人数が多いので組織、活動面から困難が生じるのでそこで本校では生徒会組織の中にJRC委員会として位置づけた。本校での生活、美化、図書、保健、給食、広報、視聴覚、クラスマッチなどの委員会、また各クラブにおいてもJRCの精神を基盤とする生徒会の基本姿勢にはかわりはない。

- ・各クラスから2名の代表がでて、JRC委員会を構成する。
- ・JRCの委員長が生徒会、会長と並んで青少年赤十字の代表となる。
- ・JRC活動の活動費として生徒会の委員会として予算の配分を受ける。

そしてJRCの委員会の構成は下記の通りである。



委員会の運営については、いろいろな困難な点が現われてくる。何かを計画し、実行するには、個人個人の活動ということもあろうが、多くの人の気持と多くの人の力を集めて、話しあっていかなければならない。

そこでの時と場の問題がある。そこでの解決法として委員会の機構を整備し、奉仕活動の中心をいくつかの柱にわけることにした。

ア 渉外部 — JRCの学習、資料づくり、親睦会の企画運営など

イ 奉仕部 — 奉仕活動の企画、ニーズの把握、実践計画、慰問など

ウ 広報部 — アルバム交換、作品の収集、実践、新聞発行など

以上のような機構で、企画会議の最高プレーンとして、アイデアを提供しあい、各部でそれを具体化しあい、それぞれの学級を通して実践をはかった。

4 委員会としての活動計画

| 月 別 | 主 な 活 動 内 容 |
|-----|--|
| 4 | ・新入生歓迎会 ・ポスター掲示 ・花壇の世話 ・名簿の作成 ・JRC委員会前期分担組織づくり |
| 5 | ・花壇の世話 ・緑の羽募金 ・ベルマーク集め ・アルバム作成 ・新聞発行 |
| 6 | ・花壇の世話（6月中旬より園芸クラブに花壇を引き継ぐ） ・ベルマーク集め ・アルバム作成 |
| 7 | ・校内の古机、古椅子などを利用したのベンチづくり） ・ベルマーク集め ・アルバム作成 |
| 8 | ・校内ベンチづくりとペンキぬり ・タオル集め ・トレセン（男女各2名） ・施設訪問（こころみ学園での奉仕作業） ・林間学校 |
| 9 | ・学校祭に協力 ・老人福祉募金 ・ベルマーク（鉛筆削り7台、黒板ふきクリーナー1台届く） |
| 10 | ・複十字シール ・那須中広谷地校舎火災見舞募金 ・アルバム作成 ・JRC委員後期分担組織づくり |
| 11 | ・精薄児のための一円募金 ・アルバム作成 ・新聞発行 |
| 12 | ・友情年賀ハガキ ・小俣小火災見舞募金と本を集める ・タオル、石けん集め ・施設訪問（老人ホーム福寿荘） |
| 1 | ・ニガラグア大地震見舞募金 ・新聞発行 ・アルバム作成 |
| 2 | ・アルバム作成 ・ベルマーク集め |
| 3 | ・3年生を送る会 ・ベルマーク集め ・新聞発行 |

5 実践報告

(A) 施設訪問を通して

3年 J.O

夏休みに入って間もない頃、私はJRCの奉仕活動として「こころみ学園」に行きました。学園のまわりの山という山の斜面には、たくさんのぶどうが作られていました。私たちのJRC委員会は全校生徒からタオルを集めてきたものの、喜んでもらえるかどうか心配でした。ところがここではタオルがなくて園児たちは、みんな薄汚れたタオルを使っていて、園児たちがとても

欲しがっていたのだそでした。

私にはこの園児達よりももっと重い小児マヒの姉がいて、11才でなくなりましたが、両親の苦労はなみだいてのことではありませんでした。私はここにきてこの園児たちの肉親の苦労がよくわかるきがしました。この学園に入れるのは、まだよい方でここに入れない子供はまだたくさんいるでしょう。私は国の福祉行政が行き届いてないのが残念です。私は私たち自身がこの問題を真剣に考えなくてはならないと心に焼きつけて帰路につきました。

12月27日私たちは第2回目の施設訪問として老人ホーム「福寿荘」に行きました。タオルやセッケンを持っていきましたが、身の回り品は何と2つとも不自由なものはないそうでこころみ学園と違い喜ばれなかった。私はまず最初に思ったことはこころみ学園よりも恵まれているなということだった。どうして同じ施設なのにこころも違うのかと思った。私たちは2～3人ずつ老人の部屋に行って、いろいろと雑談してきました。大広間にある黒板には訪問する団体の名前がたくさん書いてありました。JRC委員が外へ出て帰ろうとした時、1人の老人が「今度は学芸会でもして下さいな。」といいました。私はそのとき、はっとしました。何でもそろっていても足りないものがあったのです。暖かい人の心で、いつでも、さびしさを紛らしたかったのです。私はまたここにきて劇を見せようと決心しました。私たちは2回だけの施設訪問でしたが、得た物はたいへん大きいものだと思います。これだけで終らせないで、これからもたくさんの恵まれない人たちを助けなければならないと思います。

(B) JRC活動を通して

2年 Y.Y

私は中学生になって初めてJRCを知った1人です。活動の内容は主に奉仕活動であることを教えられた。実際私はこの活動に参加してよかったと思っている。

土を運んで花壇を造っただけでも、タオルを集めて老人を慰問して、たった1時間老人の話し相手になっただけでも、私はこのようなたびに満足にひたる。自分がとても良いことをしたように思える。このくらいことで大きな顔をする事はまちがっているといわれるかもしれない。が、それでも私は、また何かをして良い気分になるだろう。別に何かしたことによって、何が帰ってくるわけでもない。でも心はおおらかになれる。それでも「親心の押し売りをして良い子ぶっている。」と言う声が帰ってくるかも知れない。しかし、その反面「ありがとう」と小さな奉仕に向かって真の心を持って答えてくれる人もいるだろう。いやきつという。私はそんな人のために何かをしてあげたい。社会全体から見ればそれこそ問題にならないほど小さいかもしれない。そのために、やってもやらなくても意味がないと思われるかもしれない。もし、そう言い切られてしまったら、私は悲しい気持ちでやりきれない。JRCの奉仕活動というものは、無理に大きなものにぶつからずに私達のできる範囲でやって行く小さなもので、よいのではないだろうか。私達は社会人ではないのだ。経済力をもっているわけではない。青少年である。だから校内で募金をしてせいぜい1万円前後にしかならない。これだけのお金を災害地にもっていても、はたしてどれだけの事ができるのだろうか。ちっぽけなこの小さなものが大きなものを生んで行くのではないだろうか。私たちが青少年という段階で小さな奉仕を行ない小さな心に、真の満足感を得ることができるなら、その青少年は社会人となった時、大きな奉仕のできるやさしい心をもつ

ことができるのではないだろうか。だから、今、私たちは社会から認めてもらわなくても誰れの何人かの人の真の心のために、自分のために喜んで小さな奉仕をし、大きな満足感にしたってよいように思われる。

6 今後の問題とまとめ

VSの精神は他人の苦しみや悲しみを他人ごとならず思って立ち上がる心のことで、我を忘れて行動に移すのであり、その愛情を育てる場は、勿論学校教育だけではない。

それは社会、家庭、学校のすべての場でとりあげ培わねばならない。勿論学校教育においても、教育課程の内外を問わずになされなければならないものだと思う。そしてその奉仕の精神の中にあまりものをくれてやるとか、安っぽい憐れみや独りよがりの善意のおしつけではいけない。相手が喜んでくれるまでは奉仕ではないのである。生徒の実践反省の中にある老人が「今度学芸会でもしてくださいな」という声をきき、はっとしたというのがあるがこれなど今後にかすべきものだと思う。

タオルやセッケンなど持参し自分のみが喜んでるのは「自他一如」にならないのだから……。別に「奉仕なき教育は失敗なり」人に役立ってこそ学習の価値を知るばかりでなく生きがいを知る、と同時に「教育なき奉仕は失敗なり」と。

そこでの知育、実践の一体化は特別活動の生徒会を母体としてJRC精神に結びつくものであると考えたい。今後さらに中学生のVS活動を君たちの周囲から考えどのようにしたらよいかということで実践研究を深かめていきたい。

この実践化にさいしては、本校の先生方のご協力をあおぎつゝ、さらに本年度は特に本校にきたばかりの水戸部、白石両先生に担当をいただき、ご協力をお願いした。

評

科学技術の高度の発展等、急激な社会の変ばりに伴って人間疎外の問題がクローズ・アップされた。今回の学習指導要領改定においても望ましい人間形成のために調和と統一ある教育課程の編成が意図されている。この期にあたり人類愛の精神を教育活動の場にJRC活動を通してとり入れ、生徒の心の中にひそむ愛の心と呼びおこす教育に取り組んですることは、おおいに意義深いことである。

学校教育目標・努力点・具体策にJRCの精神や活動をよりこみ生徒会活動としてJRC委員会を設定し具体的に活動の場をあたえている。生徒が活動をとおして日のあたらぬ場所で精一ぱい生きている人々の生活も自分たちの問題としてはだに感じてることや、この奉仕活動が単なる親切の押し売りにならないよう生徒なりのメスを入れ、相手が真に喜んでくれる活動へと質的な成長のきざしをみせているなどすばらしい。このように学校教育で意図的な指導の場の設定が、自己本位の現在の風潮を改善し自他ともの幸せのために助け合って生活できる立派な社会人の育成を可能にするであろう。